

平成28年度第3回岩手県地方独立行政法人評価委員会 結果概要

I. 日時 平成28年10月7日（金）15：00～16：30

II. 場所 いわて県民情報交流センターアイーナ7階 アイーナキャンパス学習室1

III. 参集者

- 1 岩手県地方独立行政法人評価委員会
西崎滋委員長、室井麗子委員、下田栄行委員、恒川かおり委員、工藤昌代委員、
関内隆専門委員
- 2 岩手県立大学
石堂淳副学長兼企画本部長ほか県立大学事務局職員
- 3 事務局（県総務部総務室）
総務部 大槻理事兼副部長兼総務室長ほか総務室・人事課職員

IV. 会議要旨

【西崎委員長】 本日は、岩手県立大学の第三期中期目標案に関して、御審議いただきます。県立大学におかれましては、今年が第二期の最終年度ということで、昨年度、暫定的な業務実績に対する評価を行いました。来年度から第三期を迎えるにあたりまして、これまでの実績を踏まえて、第二期の組織や業務全般に対する評価を行うとともに、次期の目標について議論していただきます。委員の皆様方には忌憚のない御意見、建設的な御意見を、よろしくお願いいたします。

まず、本日の会議の公開の取扱いについてお諮りいたします。

「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、本日の会議の内容は公開で進めさせていただくことを御提案したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【一同】 （異議なし）

【西崎委員長】 それでは、公開として進めさせていただきます。

議題1 公立大学法人岩手県立大学の中期目標終了時における組織及び業務全般にわたる検討について

議題2 公立大学法人岩手県立大学の第三期中期目標（案）について

【西崎委員長】 それでは、議事に入っていきたいと思っております。議題1の「公立大学法人岩手県立大学の中期目標終了時における組織及び業務全般にわたる検討について」と議題2の「公立大学法人岩手県立大学の第三期中期目標（案）」については互いに関連していますので、一括して審議したいと思っております。それでは、事務局から説明願います。

【事務局】 （資料により説明）

【西崎委員長】 それでは、ここで県立大学より中期計画策定に係る状況等補足説明をお願いいたします。

【石堂副学長】 (資料により説明)

【西崎委員長】 それでは審議に入りたいと思います。事務局等の説明について御質問等ございませんでしょうか。

【下田委員】 計画等の中身ということでは、これでいいのかなとも思うのですが、中期目標のレベルでなのか、年度計画の中でなのか、計画の中に具体的な数値目標のようなものを盛り込むお考えがあるのかどうか。

【事務局】 中期目標の中には、そういった数値は書きにくいところがございます。年度計画等のレベルになれば、少し触れましたCOC+の中では県内就職率の目標などありますので、そういったものを参考にしながら、もう少し具体的な内容を盛り込むことも考えられます。

【石堂副学長】 教育面では単年度で達成と言うわけにはいきませんが、達成度を計るという意味ではある程度の指標・数値目標が必要であり、現在の中期計画等でも暫定評価あるいは期間評価で達成度を見るということで、数値的な指標をもって評価していただくこととしておりますが、年度計画の段階では達成度を必ずしも見ない形で評価していただいているところがございます。

基本的には、客観的な評価のために数値目標を設定し、中間段階あるいは最終段階で、入試の倍率や施設の利用状況といったなるべく客観的な指標を大学の方で考えなければならないと思いますので、現在いろいろと工夫しながら数値目標を含めた客観的な評価ができるような計画を立てているところがございます。

【西崎委員長】 他にございませんか。

【関内委員】 先ほど石堂先生が言われた、教育研究組織の検証を踏まえた再構築ということですが、いつ頃をお考えですか。それとの関わりで、中期目標が微調整になったりする、というようなことはありますか。

【石堂副学長】 中期目標は県から提示していただき、29年度からと決まっていますので、本学としてはそれを確実に進められるよう、29年度以降、検証を踏まえた上で、まだ結論は出ていませんのでどういう形になるのかまでは決まっていますが、次期中期計画期間中の早い段階で、大学院であれば必要があれば計画の中で目標を達成できるような形に変える等、20年間の検証という形で検証作業を進めている段階であります。

【関内委員】 そうすると29年度、第三期が始まってから具体的な形が出せるのではないかと、ということですね。

【石堂副学長】 はい。年度計画というような中で具体化していくというところですね。

【関内委員】 今回は中期目標の話ですけれども、中期計画は、どこがどう作るのかという基本的な点はどうでしょうか。

【事務局】 はい。策定自体は大学が行い、県に提示いただき、評価委員会で意見を伺い、県が認可する、という形となります。時期とすれば、年明けくらいからを予定

しております。

【関内委員】 では、目標を定めてから、ということになるわけですね。

【石堂副学長】 形式的には、設置者から目標を提示され、それに対して目標を実現するために大学が計画を策定する。設置者が目標を作る場合には、当該大学から意見を聴取することとなっておりますので、大学としては意見を申し上げる。また、設置者は、評価委員の意見等をベースにして目標を策定し、大学に示すということとなっております。

策定の時期については、中期目標が示されてから中期計画の策定を行うことは、事実上不可能でございますので、案の段階でお示しいただいたものをベースにして、計画案の策定を進めている、ということでございます。

【関内委員】 淡いグリーンで書いているところが中期計画案ですね。中期計画についての意見も評価委員会の場に出すということですか。

【西崎委員長】 それは後日ということでしょうね。

【関内委員】 わかりました。ありがとうございました。

【西崎委員長】 私は、県立大学に業務を行わせることに反対ではないのですが、事務局の説明に、県立大学に業務を引き続き担わせることについて、県としての検討が十分でない。例えば、環境は大きく変わっている、18歳人口は減っている、けれども県立大学の規模とか財政規模について何ら触れられていない、その点が県民に対して十分に責任を持っていないのではないかという感想を受けます。

例えば、中期目標のところの第二パラグラフにあるようなものを引用しながら、あるいは岩手県の進学率の低さ、それから現在の応募の状況等を出して、今の規模を当面維持する必要があるとか、そういうことを言ってもらわないと、最初に業務を継続することを前提として、こういうことをして欲しいというのは、ちょっと説明が不足しているのではないかという気がいたします。

【事務局】 議題1の部分ですね。県としては、業務継続を考えておりますが、その理由を示すということですね。

【西崎委員長】 何か触れた方が責任を果たしているという気がいたします。

また、中期目標の中で、例えば業務運営の効率化などで数値を示す必要はないですか。国立大学では具体的にこれだけ減らせ、というような数値的なものを導入されて指示されているところですね。もちろん県立大学が業務の効率化に努力されているのは知っていますけれど、目標として示す必要はないか。さきほど下田委員もそういう趣旨だったと思いますが、県としてはどのように考えておられますか。

【事務局】 確かに、中期目標自体には具体的な数字は記載してございませんけれども、並行して今後の6年間の運営費交付金についての協議も進めておりまして、その中では大学の業務内容に対して、こういった形でお願いしたいという目標を数字をもって示しています。

【西崎委員長】 例えば、目標の中の2ページの教育研究の基本組織の規模としては、県としてはノータッチでしょうか。

【事務局】 組織の規模については、県内の情勢の変化もございますし、県内の他大学の動きもありますので、それらを踏まえた上での検討が必要と思っております。

【西崎委員長】 こういう目標を受けて、県立大学側で看護学部は何名といった形で決めていくのですかね。業務の運営等はいいいのですが、どのような規模で進めるかといったことは検討する必要があるのではないかとはいえますけれど、評価委員会ではなかなかそこまでは難しい。

【西崎委員長】 大学院の定員の充足については、第一期の時に課題となり、第二期でも何か進展があるかと期待しましたが、対応が遅れ気味ではないかと思えます。

【関内委員】 大学院の定員の話となると、やはり大学独自で掘り下げるといえるか、対応策の計画をたてるというのが筋だと思います。

【西崎委員長】 そうですね。だから定員を減らすということではなく、組み替えて、もう少し別の形で定員を確保するという方法もあるでしょうし。20年間大きな組織改革を行ってなかったわけですね。その辺で、大きな環境の変化に対応できていたのかどうかという点については、なかなか判断が難しいと思えます。

【石堂副学長】 御指摘のとおり、県から要不要の判断が下されれば考えなければならぬと思えますが、その前に自己改革ということで、大学院も含め、20年間組織構成を変えずにやってきておりますので、この構成を変えるかどうかという点も含め、その検証をやっていく、というところがございます。検証の結果が、設置者にどのように受け止められるかは、また別問題とは思いますが、まずは大学自らが進めていく、というところがございます。

【関内委員】 関連して、地域説明会があったということですが、これは毎年行われているものなのですか。

【事務局】 今年度、中期目標を策定する関係で行われたものです。

【関内委員】 期待されている部分とか、厳しい声とか御説明いただけますか。

【事務局】 まず、地域説明会については、盛岡会場では、中小企業と大学の連携について、地元の酒造メーカーから大学成果の活用についての要望がありました。また、ソフトウェア情報学部の学生がもっと地域に就職して欲しい、というような意見がございました。

宮古会場では、農林水産業の分野について、地元で研究などの分野でバックアップして欲しいという要望がありました。

二戸会場では、高校との連携について意見がありました。県大でも高大連携には大分力を入れております。それから人材育成に関して意見があり、社会福祉や看護については人材を出していただいているが、盛岡短大、宮古短大からも県内で活躍する人材の育成をお願いしたい、といったことです。

奥州会場では、企業採用応募について女性の応募が多い、地元の企業を知ってほしいという要望、県大にも理工学部が欲しいという要望がありました。

次に、県政調査会での説明では、県議会議員から県立大学の存在意義について質問があり、地域貢献や地域に根ざした人材の育成と申し上げました。また、県内就

職率が低いのではないかという意見がありましたが、公務員への就職については力を入れている状況、看護師について27年度実績で県内就職率が50%を超えたこと等について、御説明しました。今回の目標案から国際交流が大項目から隠れてしまったという御指摘がありましたが、教育や地域貢献のところに記載していること等御説明しました。

パブリック・コメントについては、現在、行っているところです。

【西崎委員長】 国際交流についてのコメントがありましたが、教育、地域貢献、研究に記載がありますが、全体をマネジメントするようなものは考えておりますか。それぞれバラバラに取り組み、連携が取れなくなるようなことはないですか。

【石堂副学長】 むしろ、第二期中期目標の反省もございまして、国際交流という留学生の派遣・受入れに焦点があてられてしまうのですが、そうしただけでなく、国際交流の環境づくりという観点もあり、ここ数年行ってきた被災地支援、オハイオ大学と県大の学生等と一緒にペットボトルの配付をする取組をどう位置付けるかということについて、学生の国際交流、地域貢献として続けられるよう、細かく分化した部分がございます。

なお、御指摘あったように、どこで統制をとるかについては、企画等でとりまとめをしています。

【西崎委員長】 そうですか。研究力を高めるという面では、研究者の交流ということも大切になってくるかと思えます。

【関内委員】 地域の項に、国際交流とタイトルをつけるだけでも違ってくるかと思えます。(1)の③で地域の国際化が書いてあるので、全体の見栄えの問題もありますかね。平泉町の世界遺産で外国からの観光客との交流の話とか、地域の国際化もありますからね。

【工藤委員】 国際交流についてすごく気になるのが、ただペットボトル配付で話をした、交流したということではなくて、国際交流を通して何を実現するかということ意識しないといけないかなと思います。若い人たちにも語学力が数居とならないようにしてあげたい。また国際交流なのか語学力なのか、目標として示された方が分かりやすいような気がします。国際交流環境の整備といっても、人が交流した環境を作ったから整備した、ということは、掲げる目標としては違うような気もしますがどうでしょう。

【西崎委員長】 例えば、いろんな大学と交流協定を作って行き易くする、あるいは来てもらい易くする、宿泊施設を作るといった大枠は、最初の段階として準備する必要があると思えますけれど、その後どういう交流が行われたのかというような目標を置いた方がいいということですね。

【工藤委員】 そうですね。国際交流というテーマを付けておくとこの何年かやってきたことについて、次のステップに行きやすくなるのかな、どうなのかなというところですね。

【西崎委員長】 国際交流として、交流し、相手を理解するということまでというの

は指標になり難いですよね。

【石堂副学長】 計画として最終的ゴールとして国際交流の進展ということを示しましたが、先ほど例にあげた国際ボランティア活動に参加したことで、学生も非常に外国への認識や興味を持ち、アメリカに自費で渡った学生がいて聞いておりますし、ここ数年で海外への語学学習プログラムというのを作りましたが、それに学生が応募するということがあります。国際交流のきっかけとなる環境整備が必要ではないかということで申し上げたところでございます。

【関内委員】 工藤委員が言われたとおり、教育の（３）には多文化理解が入っていますね。第二期で国際という項目があったのが、第三期では無くなるというのが私は少し気になります。確かに小項目にはいっぱい入っていますよね。

【事務局】 大項目としては記載していないのですが、その下の項目で示しているところでございます。

【石堂副学長】 国際交流は、教育、地域貢献、そして研究それぞれに関係がありますことから、そうであれば直接そこに位置付けた方がはっきりすると考えております。

【室井委員】 感想ですが、社会情勢が変化していることを踏まえていろいろ考えなければいけないということと、その中で高等教育のあり方が加速度的に変化している、高等教育機関が再編され序列化されている、たとえば旧国立大学ミッション再定義ということで、岩手大学は地域密着型でシフトしている、また、グローバルなところを目指す大学、地域密着型と序列化が進んでいる。

地域説明会の発言の中にもありましたけれど、県立大学と岩手大学の違いは何かというところが、これからさらに問われてくるのではないかと思います。その中で、先ほど話に出た国際交流についても、例えば大学で英語で授業できるようにしなさい、ですとか、自分たちの大学を位置付けていく中で、国際交流について具体的に目標設定して、こういうプログラムを組んでいく、というような方向性があると思います。これからかけられるお金もどんどん減っていく中で、その辺りを具体化して予算の配分をすることも必要になっていくのではないかと話を聞きながら思いました。

【恒川委員】 感想ですが、委員長がおっしゃったとおり少子化が進み、義務教育で県立学校や高等学校の統廃合が進んでいく中で、誰もが行けるわけではない高等教育機関への県民の意識は厳しくなっていると思います。ただ、高等教育機関は必要だと考えており、岩手県を作っていく人が必要で、大学がそのリーダーになっていただきたい。小中高の予算がきつくなっていく中で、大学は大切だと感じているので、県民の合意を得られるような説明が求められるだろうと痛感しました。

【下田委員】 大項目で言うと、その他の業務運営に関するところになると思いますが、情報セキュリティについては、安全管理・法令順守等に関わる部分だと思うのですが、どうなっているのでしょうか。

【西崎委員】 国立大学も文科省から直接事細かな指示が来ておりますが、県立大学はどうでしょうか。

【県立大学事務局】 事務局からお答えさせていただきます。県立大学は総務省から直接セキュリティポリシー等について、きっちり定め、点検し、報告するようになっております。また、県立大学の中でも委員会を設置しており、幸い大きな問題は起きておりませんが、年数も経っておりますので逐一更新していくことを考えております。

【西崎委員長】 当然コンプライアンスの中に入ると思います。

【下田委員】 お金のかからないやり方で、教育や研修もあるので。

【関内委員】 私も感想ですが、高等教育機関を巡る環境が厳しいなか、他県の公立大学の成功例などを見極め、岩手県立大学は実績を挙げていますので、実績を挙げたところをさらに伸ばしていき、問題のあるところは着実に改善していただければと思います。国立大学は非常に厳しくて、これから各地で国立大学と公立大学との競争という問題が出てくると思います。

【西崎委員長】 そうですね。国立大学だと、あそこの大学ではこういうことをやっている等知らされるのですけれど、公立大学にもあるのでしょうか。

【石堂副学長】 公立大学協会があり、協会の動きの中で80数校あり評価に近いことをやっており、細かい事例までは把握しきれてはいませんが、情報共有を行っていません。最近、地方の私立大学が公立化していき、競合しはじめています。先ほど来、指摘されているように、公立大学は国立大学と違い、ミッションが地域密着で、そのために公立大学ができておりますので、そういう意味では国立大学が同じ土俵に上がってきたという印象でございます。

【西崎委員長】 確かにそうですね。ほかに御意見ございませんか。

それではお諮りしたいと思います。まず、議題1「公立大学法人岩手県立大学の中期目標終了時における組織及び業務全般にわたる検討について」ですが、私から指摘した業務を継続させる必要性についての記載を含めてもらう、ということでの承ということでのよろしいでしょうか。

【一同】 (異議なし)

【西崎委員長】 続きまして、議題2「公立大学法人岩手県立大学の第三期中期目標(案)について」については、多々意見は出ましたけれども、具体的な訂正もなかったもので、この案のとおりお認めするということがよろしいですか。

【一同】 (異議なし)

3 その他

【西崎委員長】 それではそのようにいたします。その他、ありましたらお願いいたします。

【一同】 (なし)

【西崎委員長】 事務局の方からはございますか。

【事務局】 最後に、お礼方々、お話をさせていただきます。本日は熱心な御審議をい

ただき誠にありがとうございます。特に、西崎委員長からお話のございました事業継続への言及は、中期目標の「はじめに」の部分で、県立大学への期待についての記載が薄い部分もございます。世の中の潮流・トレンドといったものもございまして、それらのエビデンスで書き込んで補強させていただきたいと考えております。

また、中期目標の国際化については、県立大学の石堂副学長からもお話がございましたが、県立大学における国際化は、地域密着型でございまして、地域の産業界との連携という観点もございます。その中での国際化についても盛り込んでいくとなりますと、関内先生のお話にもありましたけれど、平泉の観光、ILCの関係など、岩手県の課題ともなりますので、そういった分野への人材供給として、国際交流にも足を踏み出していかなければいけないということもありますので、中期目標では言い足りない点については、中期計画等において配慮しながら進めていただきたいと考えております。

いろいろと貴重な御意見を賜りありがとうございます。委員の皆様御意見を反映し、きちんとした形で中期目標案を示していきたいと考えております。本日はありがとうございます。

【西崎委員長】 それでは、本日の議題は終了させていただきます。御協力ありがとうございました。

【事務局】 必要な修正等加え、12月議会への上程について進めたいと考えております。